

# 合同教育研究全道集会2017

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして

## 11/3(金・祝)～4(土)

=会場=

札幌市教育文化会館  
高等学校教職員センター  
中央区民センター  
東区民センター

### ● テーマ討論【3日 10:15～12:30】(札幌市教育文化会館)

- ①新「共通テスト」で北海道の教育はどうなるのか
- ②改訂学習指導要領で子ども・学校・教育がどうかわる？  
子どもたちの豊かな成長、教職員、保護者、地域住民の願う教育をめざして
- ③子どもの貧困と地域・学校
- ④北海道150年を教育の現場から問い直す  
～アイヌの立場から～



### ● 分科会【3日 13:45～16:45 / 4日 9:30～15:00】

### ● 教育の夕べ【3日 17:45～19:45】(札幌市教育文化会館) (開場 17:30)

記念講演

「国民が真実を知るために」

齋藤 貴男さん



1958年東京生まれ。  
ジャーナリスト。新聞記者、  
月刊誌編集者、週刊誌記者  
を経てフリー。主な著書  
「安心のファシズム」(岩  
波新書)「機会不平等」(文  
藝春秋他)「国民のしつけ  
方」(インターナショナル  
新書)他多数。

子育てのこと、学校のこと、みんなで話し合いませんか。「合同教研」は毎年、全道から子育てや教育にかかわる人々が集まって開催されている、誰でも参加できる教育研究集会です。

■主催:2017合同教育研究全道集会実行委員会 ■連絡先・事務局(北海道高等学校教職員センター内)  
〒060-0042 札幌市中央区大通西12丁目 TEL / 011-231-0816 FAX / 011-241-8510  
HP / www.goken-hokkaido.jp

## ●分科会のご案内

分科会名横の（ ）内の数字は、各自で印刷・持参いただくレポート部数です。

<b>1 国語教育 (40)</b> <p>ことばを「情報」として操作するだけ。文学作品も読まない、作文も書かない—最近の流行のこんな授業は国語教育ではない—と怒っているみなさん！本当の意味で生きる糧となる国語教育を、参加者みんなで作ってあげてみませんか？</p>	<b>7 書教育 (30)</b> <p>小学生の毛筆指導から高校生の作品展示まで、幅広い参加者ニーズに応える分科会を目指しています。</p>
<b>2 外国語教育 (40)</b> <p>「グローバル人材」「コミュニケーション能力」「小学校での教科化」「大学入試改革」。現場を揺るがしているこうした教育政策のキーワードをもとに、真の外国語教育の目的を確かめながら、子どもの明るい未来につながる授業づくりを語り合しましょう。</p>	<b>8 音楽教育 (30)</b> <p>音楽は、人が豊かに生きていくために欠かすことのできない文化です。音楽の授業は、子どもと教師が教材を真ん中にして文化を育む場です。ささやかでも、普段着の実践を持ち寄り、語り、歌い、学び合しましょう。</p>
<b>3 社会科教育 (60)</b> <p>人格の完成をめざす教育を真に実現するために、歴史をしっかりと踏まえ、民主主義・平和・人権保障の実現を志向する、未来の社会の担い手としての主権者を育てる内容・方法について考える場にしましょう。</p>	<b>9 技術・職業教育 (20)</b> <p>子どもたちの生活する社会でも、技術・職業教育に関わる問題が数多くあります。ブラックバイトをはじめとする労働問題など、身近な問題などを中心に数多くの実践を持ち寄り、学び合しましょう。</p>
<b>4 数学教育 (40)</b> <p>「数学は本当におもしろいな」という気持ちになる授業をするにはどうしたらよいか、自由な雰囲気での話し合い、見晴らしのよい数学と数学教育の世界を味わいましょう。</p>	<b>10 家庭科教育 (30)</b> <p>生命と生活の再生産にかかわる学習を担う家庭科は、子どもが直面する生活の困難にどのように迫り、何を提起していくべきなのでしょう。現在と将来にわたる生活の主人公を育てるため、大いに意見交換しましょう。</p>
<b>5 理科教育 (40)</b> <p>北海道の子どもが自然科学を豊かに学ぶことができるよう、授業づくり、実験教材やものづくり教材の開発、地域の自然の教材化について語り合しましょう。子どもがいきいきと活動して学ぶことができる授業をつくりましょう。</p>	<b>11 保健・体育教育 (50)</b> <p>保健・体育で求める本当の学力とは何か。子どもの現状を語り合い、いかに子どもの命や体を守り育てていくのか交流しましょう。また、食・健康・運動文化の主人公に相応しい力をすべての子どもに保障する教育を考えましょう。</p>
<b>6 美術教育 (30)</b> <p>豊かな情操を育む美術教育は子どもたちの人格形成に欠かすことができない学習活動です。この分科会では持ち寄った児童生徒の作品を囲み、より良い授業実践をめざして、その考え方や手法などを語り合います。</p>	<b>12 総合学習・生活科 (40)</b> <p>「何を学ぶか」「なぜ学ばせるか」という視点からの授業づくりと生活科・総合学習の実践を豊かにしていく報告が近年増えています。「深い学び」を実現する生活・総合実践について語り合しましょう。</p>



<b>13 特設 道徳</b> (40) [11/4のみ開催]	<b>19 国民のための大学づくり</b> (40)
「道徳科」は、「自ら考え、議論する道徳」を唱えています。エリートとして「能動化」「主体化」を求める一方、そうではない子どもの心を統制する危惧があります。様々な教育活動を通じた道徳教育、「内容項目」を取り込みつつ毎日の子どもたちの現実生活と結んだ「道徳科」の授業づくりなどを交流しましょう。	政府は高校と大学の教育を一挙に変えようとしています。新学習指導要領、新共通テストと大学入試改革、「専門職大学」など、統制・競争・分断の政策を乗り越え、学問と青年期の発達保障のあるべき姿を探ります。
<b>14 学校と家庭の生活指導</b> (40)	<b>20 障害児・障害者の教育と福祉</b> (100)
学校現場を席卷するゼロトレランス・道徳の教科化、そして、貧困・格差が広がる社会の中で子どもたちの声を聞きとり、どのような「遊び」「学び」や生活指導実践が必要なのか探ります。	1日目は、名寄市立大学小野川准教授のミニ講演を通して、寄宿舎教育を取り巻く現状を学び、その意義を問い直し、これからの展望を考えます。2日目は、レポート討議を行います。全道の実践を持ち寄り、障害児・者の「今」から出発した教育・福祉のあり方を語り合います。
<b>15 教育条件確立の運動</b> (30)	<b>21 環境・公害と教育</b> (30)
ゆきとどいた教育の実現には、「人・物・予算」の裏付け、すなわち教育条件整備が不可欠です。教育予算や教育費負担、学校統廃合、教職員定数増と労働条件改善など、切実な課題について学び、語り合しましょう。	公害問題から出発し、自然・環境問題、学校での自然保護教育・環境教育のあるべき姿を探ってきました。地震災害・風水害、原発再稼働に関連し、エネルギー政策、放射性廃棄物問題、防災教育などについても討論しましょう。
<b>16 教育課程・学校づくり</b> (40)	<b>22 平和・憲法、人権・民族と教育</b> (60)
安倍「教育再生」の押しつけに抗し、教職員・子ども・保護者・地域が力をあわせてつくっていくために、お互いの実践や思いを交流しましょう。また、様々な課題をかかえる子どもたちの実態や教育課程についても、じっくり語り合しましょう。	安倍長期政権は、憲法改正論議を浮上させています。これに対する実践と理論を学びあいましょう。また、近現代のアイヌに関する歴史を学び直し、アイヌ民族についての教育の新しいあり方を考えましょう。
<b>17 地域における子育て・学習運動</b> (40)	<b>23 子ども・青年の発達と教育</b> (100)
現代は多様な家族が増え子どもの生活に大きな変化が見られます。子どもが生き生きと育つ環境づくりが地域共同活動に求められています。PTA活動、子どもの貧困、若者の地域参加など地域からの実践報告に学び交流します。	子ども期・青年期は最も多感で豊かな成長と発達が保障されるべきです。しかし、今の政権と財界はその「学び」より自分たちの路線に従順な「人材」づくりに狂奔しています。「人が育つ」の議論を通し深めましょう。
<b>18 地域と学校の文化・スポーツ活動</b> (30)	<b>24 不登校・登校拒否・高校中退</b> (50)
子どもたちを人間的に成長させる上で、文化・スポーツ活動は大きな役割を担っています。しかしながら、そこには様々な課題や困難な状況があることも事実です。奮闘されている方々の実践をもとに、その解決に向けて、みんなで話し合しましょう。	不登校のこどもたちやひきこもりが長く続く青年たちが、安心してゆっくりと心を休ませる居場所が求められています。親が生活維持のために祖父母に頼る報告もあります。学校の受け止め方、親の会の交流、支援団体の努力を学び合しましょう。

ごあんない



# 子どもを中心にした 教育・学校を！



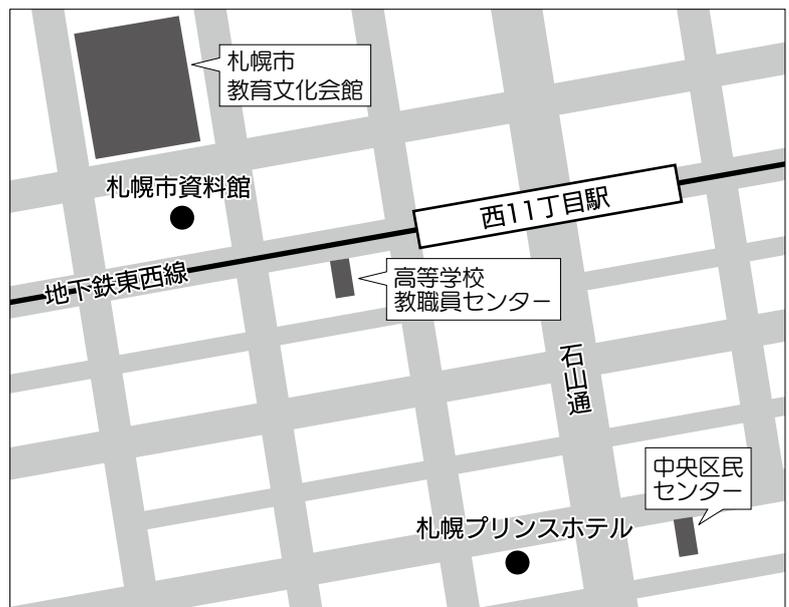
- 「教育の夕べ」は参加費500円が必要です
- 教育文化会館には保育所を用意しています。申し込みは事務局へお願いします
- 障がいを抱えられている方の参加は、会場準備の関係上あらかじめ事務局へご連絡ください
- 昼食は各自ご用意ください

## ●会場案内

=主な交通機関=

- ▶札幌市教育文化会館
- ▶高等学校教職員センター
- ▶中央区民センター  
地下鉄東西線 西11丁目駅
- ▶東区民センター（東区役所と併設）  
地下鉄東豊線 東区役所駅前駅

	分科会開催No.	開催日時
▶ 札幌市教育文化会館 →	1~12・17・18・20 (中央区北1条西13丁目 ☎011-271-5821)	11/3・4
▶ 高等学校教職員センター →	15・16・19・21・22 (中央区大通西12丁目 ☎011-231-0816)	11/3・4
▶ 中央区民センター →	14・23・24 (中央区南2条西10丁目 ☎011-271-1100)	11/3
▶ 東区民センター →	13・14・23・24 (東区北11条東7丁目1-1 ☎011-742-5500)	11/4



## ●レポート参加される方へ

1. 教職員の日々の実践や子ども、教育の様子など簡単なものでかまいません。A4一枚程度から発表できます。
2. レポート参加する場合、各合研加盟団体を通じて合研事務局へ連絡してください。(10/13まで)  
加盟団体以外のレポート参加は、合研HPに掲載の「エントリーシート」で報告してください。
3. レポートの作成方法・注意事項
  - ・レポートはA4版で表紙には「テーマ」「分科会」「所属・氏名」を明記してください。
  - ・**レポートは各自が印刷しご持参ください。**(部数はリーフの分科会名横の「レポート部数」参照)
  - ・プライバシー侵害の恐れがありますので、実名記載は避け個人が特定されないようご配慮ください。
  - ・教研集会の主旨を踏まえ、報告・討論の際には生徒や参加者の人権に十分配慮してください。
  - ・レポートの「非公開」を希望する場合、表紙に朱書きで「非公開」と明記してください。
  - ・レポート発表に使用する機材は、必要最小限でお願いします。必要な場合、あらかじめ事務局へお申し出ください。
4. その他詳細については、合研HP [www.goken-hokkaido.jp](http://www.goken-hokkaido.jp) をご覧ください。